

# 40周年記念旅行



5月に喜楽家40周年記念旅行へいきました。  
天気にも恵まれ、昼食場所の海ほたるは眺めもよく写真を撮ったり、デッキでアイスを食べたいして満喫しました。昼食後は宿泊先の鴨川ホテル三日月へ。大浴場のんびり湯に浸かり、夜はみんなと宴会(カラオケなど)をしました。  
部屋に帰った後も遅くまでみんなで話したいして過ごしました。  
2日目は鴨川シーワールドへ行きました。イルカのショーをみたり、買い物をしたい楽しくて時間が足りないくらいでした。またみんなでも行きたいし、自分でも行きたいです！  
大柿・吉田

## 海ほたるで昼食





—ひろげよう福祉の輪— 第30回

# こんさーと 水の輪

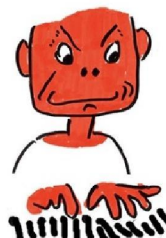
うた (メゾ・ソプラノ)

波多野 睦美



ピアノ

高橋 悠治



【曲目】

ひとときの音楽 (パーセル)

夢のたたかい (モンポウ)

猫の歌 (高橋悠治)

平和の祈り (フーランク)

ジムノペティ (サティ)

菩提樹 (シューベルト)他

- 三郷ジョイコール (女声合唱)  
指揮/板東貴余子 ピアノ/岡部裕司
- トーンチャイム  
dB: デシベル (社会福祉法人彩会ザザビー・ドゥ)
- 川上沙紀子 (ピアノ)

**2016年9月10日(土) 午後1時開場 / 1時30分開演**

**三郷市文化会館 小ホール 全席自由 2,000円**

武蔵野線 三郷駅より徒歩 15分

[主催] 福祉ネットワーク水の輪

[後援] 三郷市社会福祉協議会 / 松戸市社会福祉協議会 / 柏市社会福祉協議会

流山市社会福祉協議会 / 三郷市合唱連盟

[お問合せ] 04-7175-4731 (嶋田) 0297-44-8948 (小出)

048-957-3867 (今井) 048-958-0252 (森野)

私達が福祉ネットワーク活動の一つとして1987年から始めた「こんさーと水の輪」も、このたび28回目を迎える事が来ました。

このコンサートは当初、私がボランティア活動で知り合った障害者施設が資金難に陥っているのを援助するため、ささやかな個人寄付で始めたものですが、障害者に対する福祉をさらに広く確かなものにするために、運営のすべてを福祉対策として発展させたものです。

常日頃あまりコンサートに参加できない障害者の方々をお招きして良い音楽を聞いていただくと共に、売り上げのすべてを福祉施設に寄付することにしております。

「水の輪」は、水に落ちた一滴のが大きな波紋を描いて広がっていくように、ボランティア活動の輪が、より広がっていくように！願いを込めて名付けました。今後ともに私共の活動に、お力添えを下さいますようお願い申し上げます。

水の輪代表 嶋田美佐子

水の輪一同



私の趣味

私の趣味は、読書です。

私の好きな小説の作者は、J・K・ローリング・東川篤哉・湊かなえです。

好きな作品は、ハリーポッターシリーズ・謎解きはディナーのあとで・夜行観覧車などの作品を読んだ事があります。



ハリーポッターシリーズ場合は、現実にはない魔法の世界という設定に惹かれ読み進めていくうちに自分も魔法が使えたらいいなあと思いました。

謎解きはディナーのあとで場合は、登場人物の設定に驚きました。

お嬢様なのに警察官お屋敷の執事は、何者かは不明いう設定で今後この2人がどうなるのがきになりました。

夜行観覧車の場合は、物語に登場する娘に起こる出来事によって娘の精神が不安定になっていく姿に心が痛みました

本を選ぶ基準は、人それぞれだと思いますが・・・

本を選ぶ上で大切なのは、その本を読みたいか？を読みたくないか？そしてその本に自分の心が引かれるか？引かれなないか？と言う事ももちろんありますが、・・・私の場合、小説で一番大事なのは表紙だと思います。作者と言うのももちろんありますが、私は表紙を見てからあらすじを読み小説の1ページ目だけを読んでから、買うか？ 買わないか？を決めています。

漫画でも小説でもそうですが、その本に自分の心が引かれるか？引かれなないか？だと思います。人と人の出会いが、一期一会と言うように私は、本との出会いも一期一会だと思っています。私が興味のある本の場合、欲しい本と言うのもありますが、その本を自分の心が求めているか？で決めています。

山口 舞花



# 声の文法 改 ー 1

序 前回まで44回にわたって、「声の文法」という題目で、雑然と筆者の思うところを書いてきた。論点も出揃ったので、ここで改めて、論旨を整理して論じ直したい。

ー1、日本語文法を考える意義について、

本論は、西欧語の文法を「形式の文法」、日本語の文法を「声の文法」と規定し、その相異を比較して論じる。これを通して、日本語のありのままの姿を明らかにしたいと考える。

さて、このように聞いた皆様はどう感じられるか、日本語の文法についてどんなイメージをもっておられるか。実はほとんど関心をもてないのである。理由は簡単で、日本語をすでに自由にしゃべれるからである。日本語を母語として育った人—これは国籍とは関係ないので以後日本語人と呼ぶが—は漢字を書きまちがえないよう、敬語や四字熟語の誤用について注意を払うが、文法については意識せずとも、話しかける。

水の中の魚は水を通して呼吸し、泳ぎ、生きている。魚は水のことなど意識しない。…と思う。同様に人間も母語の中に生まれ、それを自然なものとして受け入れ、使い、死んでゆくのである。

さてしかし水と言葉は同じものか。水は地球上のどこにもある自然物であって同一の性質を持つ。ヒトもまた極地から熱帯にまで分布している。ヒトはヒトと規定するのは、二足歩行、道具の使用とともに、言葉を持つことである。しかし言葉は人工物である。同一の性質を持つ水とはちがって、多種多様である。現在、国家の数は200に満たないが、言葉の数は、そもそもどう数えるのかという考え方がちがうので研究者で答えがちがうのだが、2000から6000種という人までである。

これらの言葉はたがいに区別される異なった文法をもつ。よく似ている言葉同士で「語族」という仲間を形成するものもあるが、孤立している言葉もある。各異なる文法を持っているので自分の母語とはちがう言葉と話したいと思ったらその文法を学ばねばならない。そこでヒトは今まで自然物であるかのように慣れ親しんでいた言葉が人工物であると気付くのである。人工物でありながら自然物であるかのように気付かれぬうちに、ヒトを縛っているものに、お金(通貨)、法律、国家などがある。このことに気付くところから、「考える」という行為が始まる。

ー2 日本語人は文法とどう出会うか

西洋語の世界では、「考える」ことに志ざす人は、基礎科目としてrhetorica(修辞学)、logica(論理学)と並んでgrammatica(文法)を学ぶのが、古代からの決まり事である。日本の学問は昔も今も文法に無関心のままである。極めて不幸なことだと思う。しかしそれだけではない。この無関心の上にも重なる不幸について以下に述べる。

日本語人が文法に出会うのは古文が最初である。万葉集など1000年以上も前の和歌を読むには文法が必要となる。万葉集、318歌

田子の浦ゆ うちいでて見れば ま白にぞ  
ふじの高嶺に 雨はふりける。

上の歌を読んでどうけとめられたか、現代人の我々にも、おおよその意味は伝わってくるのではないか。それで古文の先生は云う。

「古文の勉強で大事なのは、何度も何度も声に出して読んでみることだ」と。これを舌頭千転という。舌先で千回声にだしてみることである。そして先生は付け加える。「文法の細かいことなど気にするな!」と。それで文法意識はゆるいままに過ぎてしまう。

さて次に日本語人は英語に出会う。これは外国語であるから、古文とは逆に、緊張がMAXに達する科目となってしまう。日本語と英語のちがいは辞書に良く出ている。日本語の辞書は通称「字引き」というように、漢字の形を確かめるのを第一義とする。意味も書いてあるが、例えば「しあわせ」の意味として「幸福なこと」と書いてある。「幸福」を引くと「しあわせなこと」と書いてある。それでも日本語人は、元々意味はわかっているのが苦情でもない。一方、英語の辞書は、単語がまずあるが、次に名詞か動詞などの品詞分類があり、名詞なら複数の場合の、動詞なら活用する場合の変化形があり、発音記号があり、意味があり、語源の説明があり、用例がありとフル装備である。

これで日本語人は打ちのめされて、文法とはこういうものかと骨身にしみて思いしらされるのであるが、上記の「重なる不幸」とはこのことではない。外国語の学習に苦勞するのは当然のことである。

「不幸」とは日本語では話し言葉と書き言葉が別のものである。という事に起因する。[詳しくは「二重言語国家・日本」石川九楊著、NHKブックス参照]。ここでは手短かに記してゆくが、日本語では古来、正式な、公式な文書は漢文で記すこととなっていた。その漢字から仮の名、ひらがなと、カタカナが生まれ、女流文学者が和歌や物語文学を発達させる時にはひらがなが用いられる。話し言葉は漢文では書きとれないので、多くかなによって書きのこされている。この本来、外国語である漢文と日本語の話し言葉の間には、様々な漢字かな交り文があった。

さて、明治以降、漢文は排されたが、近代的な国民国家にふさわしい書き言葉をどう確立するのは、一方では緊急の、それでいて簡単に処理することのできない問題でもあった。

以下次号

西川 淳司